

～今月の読み物～

オオサンショウウオのはなし

(有)山良商店
山崎 良市

私とオオサンショウウオとの出会いは、60年ほど前の日本橋高島屋の屋上です。今思えばなぜあのような場所に特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが飼われて展示されていたのか不思議でなりません。デパートの屋上の一角にどういった経路でやってきたのでしょうか？小学生の私は、その地底からノソノソと這い上がってきたような恐ろしい姿を見てこんな生き物が日本に居るのだとひどく興奮したのを覚えています。

関東では、馴染みのないオオサンショウウオですが、岐阜県以西の山の中の清流に生息しています。両性類（カエル、イモリなど）では世界最大の生き物です。普通に見れば気持ちの良い姿かたちではないのですが、最近では“ゆるキャラ”のような愛嬌のあるマスコットやぬいぐるみが人気のようです。

生態は夜行性で昼間はほとんど川の中の巣穴でじっとしています。夜になると巣穴から出て目の前にいる生き物は何でもカブリと大きな口で食べてしまいます。その大きな口が裂けているように見えることからでしょうか、別名ハンザキという和名があります。また京都から兵庫、鳥取、広島、岡山、島根にかけては“アンコウ”とも呼ばれています。このオオサンショウウオのすごいところは大きな口だけではなく、3千万年前からその姿かたちをほとんど変えることなく現代に至っています。3千万年もの間オオサンショウウオには進化など必要なかったのでしょうか。

昔からのんきに生きてきたオオサンショウウオですがその生息地では貴重なタンパク源として食用にされていて、そのため激減し特別天然記念物に指定されました。それからは中国から輸入して、京都の料亭などでも出していたそうです。その時に輸入されたチュウゴクオオサンショウウオが河川に放たれて、野生化し日本古来のオオサンショウウオと交雑してしまい、特に京都の鴨川にいる90%以上がチュウゴクオオサンショウウオかハイブリッド（交雑種）だそうです。



オオサンショウウオ



オオサンショウウオ

この交雑したオオサンショウウオを研究して、日本古来のオオサンショウウオを守ろうと立ち上がった栃本武良先生こそ私が中学1年、2年で生物を教わった先生です。東京水産大学(現海洋大学)を卒業してすぐ私立の中学高校の教師になりました。

栃本先生は教科書の授業ではなく、生物教室に100余りの水槽を並べてご自身でどこからか手に入れてきた海水魚や淡水魚、貝類、水草、蛇、カエル、イモリなどを飼育されて、学校に泊まり込みで世話をされていました。本当に生きた授業をしていただきました。そのお手伝いがしたくて私はすぐ生物部に入部しました。栃本先生はわずか2年間で教師の生活をやめ、姫路市立水族館を新規に立ち上げるために姫路に行くことになりました。当時の私は先生を見送るために、学校をさぼって何人かの仲間と東京駅まで見送りに行きました。その後姫路市立水族館と宍道湖淡水水族館の館長を歴任して、退官後かねてから研究していたオオサンショウウオの研究に専念すべく日本ハンザキ研究所を立ち上げ兵庫県生野の山奥の廃校になった校舎を借りて単身でオオサンショウウオの生態の研究をされています。

今年暖かいうちに研究所に来ないかというお誘いがあり、何人かの先輩や後輩と連絡をとって、9月初めにうかがうことができました。

姫路から播但線にのって生野に行き、そこからコミュニティバスにのりたことでしたが、私は金曜日で出発が遅くなり姫路でレンタカーを借りて行くことにしました。約1時間高速道路を乗り継いで生野まで行きそこから真っ暗な山道をうねうねと登って黒川の「丸常」という民宿に着きました。小さな何



軒かの集落でたった一軒だけの民宿でなんとオオサンショウウオの夜間観察を目玉にしている宿でした。

宿の夕食は栃本先生を囲んでの大宴会でした。そろそろお開きとなる夜の10時過ぎにオオサンショウウオの観察に行こうと先輩が言い出しました。酔った勢いなのか誰一人反対するものもなく全員で、懐中電灯を持って宿の前にある川に向かいました。そんなに簡単に見つかるわけもなくあきらめて川から上がってくると、丁度片付けがおわった宿の主人が居る場所に案内しますと、先頭に立ってくれました。10分ほど上流から横に入った支流(川幅1メートル位)にわけ入ると「居ましたよ!」と持っていた大きな電灯を揺らしています。皆、我先にと川の中をびちゃびちゃと濡れるのも構わずのぞきにいくとオオサンショウウオがのっそりと漂っていました。私は60年ぶりの対面です。もちろん野生の個体を見るのは初めての経験です。その夜はなかなか寝付けず皆で遅くまで騒いでいました。

翌日の朝は栃本先生のハンザキ研究所を見学です。宿から車で5分ほど走った黒川小中学校の校舎は鉄筋造りですがかなり古くてボロボロでした。旧職員室が事務所で各教室が展示室になっています。校庭を挟んだ向こう側にはプールがありそこには近くの河川工事の時に預かったかなり大きなオオサンショウウオが数十匹いました。プール横の準備室の中には生まれて1年から5年までのまだ幼生のオオサンショウウオが飼われています。まだエラ呼吸の幼生は水槽の中で生活しています。その姿は黒いウーパールーパーです。その後変態して肺呼吸になるのですがかなり長い間水中にいて、たまに水中から顔を出して呼吸します。先生によると1年で10ミリほどしか成長しないので例えば150センチの個体は150

年生きているかもしれない？とのことですが、まだ誰もオオサンショウウオの一生を突き止めた研究者はいないそうです。

最近では川で捕まえた個体にマイクロチップを埋め込んで放しているそうです。誰かこの研究を代々受け継いでほしいと話をされていました。何十年ぶりかの栃本先生の授業を受け、R70世代の爺さんたちが中学生に戻ったかのような二日間でした。

帰りは姫路の手柄山公園の姫路市立水族館を見学して帰路につきました。

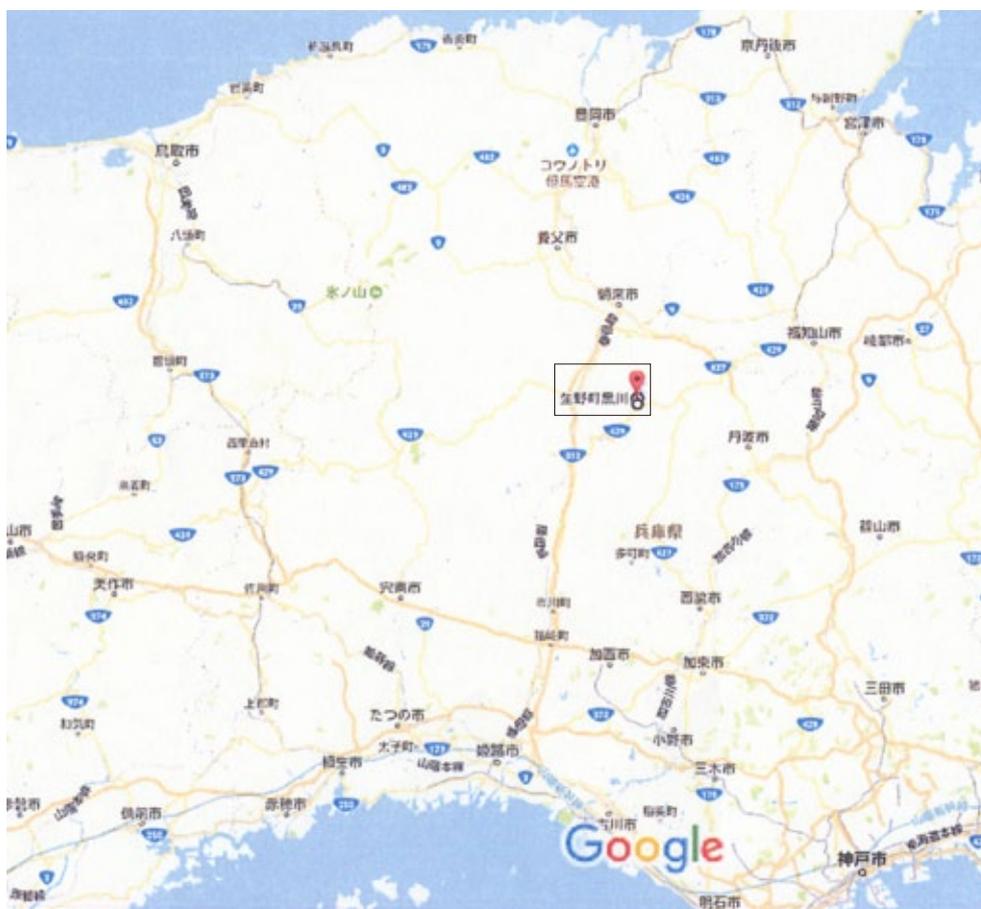
脚注 ウーパールーパーはメキシコサラマンダーの幼生でアルビノ種です。

オオサンショウウオの英語名はジャパニーズジャイアントサラマンダー

ハンザキという名前の由来は説がたくさんあるそうです。中国でもオオサンショウウオはレッドブックに指定されて養殖のものしか食べられません。日本のチュウゴクオオサンショウウオや交雑種も捕まえたりして処分できないところに問題があります。

11月19日(日曜日)午前7時45分よりNHK総合『さわやか自然百景』の番組にて日本ハンザキ研究所と栃本武良先生が紹介されます。

是非、ご覧下さい。



兵庫県朝来市生野町黒川